

子どもの笑顔は  
みんなの願い



令和4年度 10月  
50周年特別号

嵯峨野こども園  
担当 ひまわり組

## 10月 月目標 楽しい保育園

乳児

(ねらい) ・秋の自然に触れながら、戸外遊びを楽しむ  
(家庭連絡) ・活動や気温に応じて調節しやすいように、毎朝ロッカーへ衣類の補充をお願いします。

幼児

(ねらい) ・友達と力を合わせて活動に取り組み、自信を持って自分の力を発揮する  
(家庭連絡) ・朝食をしっかり摂って、日中元気に活動できるようにしましょう。  
・日中は半袖で過ごし、朝・夕は上着を着用し調節することで厚着にならないようにしましょう。



1日(土) 創立50周年記念日  
5日(水) リズム教室(ふじ・きく)  
12日(水) 運動会プレリハーサル  
お弁当の日(幼児)  
14日(金) 運動会リハーサル  
15日(土) 運動会  
20日(木) 体操教室(ふじ・きく)  
24日(月) 内科検診  
28日(金) 避難訓練

### 創立50周年に寄せて～職員の違い～



理事長 石田 公和



園長 石田 修一郎

昭和47年10月1日嵯峨野千代ノ道に定員60名の京都市嵯峨野保育所が誕生しました。当時、太秦西野町の嵯峨野乳児保育園が閉園することによって公設民営の保育所が社会福祉法人梅ノ宮乳児保育園の運営で発足したのです。0歳から就学前の60名を4つの教室で5歳児さく組、3・4歳児ゆり組、1・2歳児さくら組、0・1歳児たんぼぼ組と編成して職員は園長、調理と保育士6名で保育を行っていました。保育士は1週間に早出、居残りが2回ずつ周り、電話は小さな事務所で電話が鳴ると走って事務所の電話を取る様なことでした。開園当初は、夜、無人になるのを避けて住み込んで頂き、不用心な保育所の警備を兼ねて頂いていました。ウサギやカメも園児と一緒に居たのを聞いています。昭和56年4月に園長に就任した時は園舎の南側にタイルのプールがあり真ん中に丸い島のようなものがあり、夏に泳ぐとぶつかっていたのを思い出します。園児が小石でそのプールのタイルをたたいてあちらこちらにはがれたところが目につき、そのプールを撤去して今の組み立てプールにしました。私が園長になり初めて大きな買い物は飛行機ジムでした。この飛行機ジムは園庭のあちらこちらで居場所が定まらず、園児がお昼寝起きに飛行機ジムが飛んだと大はしゃぎでした。この飛行機、JALのマークが変わった時にはツルのマークから日の丸のマークに書き換え、また、ツルのマークになると塗装のやり直しをお願いして塗って頂きました。今も人気の飛行機ジムです。50年の月日が子どもと一緒に育ったのだと思います。

これからも子どもたちに負けないように頑張りたいと思います。

嵯峨野こども園 創立50周年記念を盛大にお祝い頂き心より御礼申し上げます。

また、共に子どもたちの成長に携わっていただいた保護者の皆様やこれまで嵯峨野こども園を支えてくださった地域の皆様に深く感謝申し上げます。

嵯峨野こども園は昭和47年10月1日に嵯峨野保育所として誕生致しました。定員が60名と現在の半分ほどの規模の施設でした。時代の需要に応じて増築や認定こども園への移行を受けて現在の定員113名の嵯峨野こども園へと至ります。

さて、私も卒園児である境遇から、当園への思いも一入です。「この遊具、よく遊んだなあ」「この部屋の一角、好きだなあ」きっと卒園児なら同じように感じる場面があるのではないのでしょうか。その思い出の側にはいつも保育者、友達、そして家族の笑顔があった。だから自分も笑顔でいられた。それが恒久的に達成し続けたい嵯峨野こども園の理念の展開の基礎だと信じています。ですから在園児にも現在進行形で体験している事の全てを大切にしていきたいと思います。

50周年の節目の年に際し、歴史ある嵯峨野こども園の伝統や理念を継承し、子どもたちの未来を自ら創造できる力を育み、保育・教育を推進していく所存です。今後ともよろしくお願い致します。

## 教頭・主幹保育教諭

毎年10月1日になると、園のお誕生日であることを伝え、幼児クラスでは、出席ノートに創立記念日のシールを貼ってお祝いをしています。今年は創立50周年の記念の年となり、いつも以上に特別感があります。この節目の年に、この園の一人として、今ここにいられることに感謝します。

私達がこの園で仕事を始めた頃は、『京都市嵯峨野保育所』という名で、定員60名で4クラスという小さな園でした。前園長先生(現在の理事長先生)の下で、保育を学び、沢山の子どもたち、保護者の皆様に出会うことができました。「保育園は家庭の延長。家庭的な保育を。」という前園長先生の教えを胸に、保護者の方と二人三脚でお子さんの成長を見守り続けてきました。当時は私達もまだまだ未熟で、行き届かない点もありました。子どもたちの成長を手助けする身でありながら、気づけば目の前の子どもたちや保護者の皆様に教わる日々でした。保育の原点がそこにあったと、今でもよく思い出されます。皆様のお陰で、私達も成長を重ねてきました。反面、今ではすっかり忘れっぽくなってきましたが(笑)、不思議なもので子どもたちと過ごした日々はいつまでも心に残っているのです。感動した出来事は勿論ですが、何気ない日常の1コマも…。指に巻いた包帯を「指の帽子」と言った素敵な感性の〇〇君、落ちていた靴下を「誰の～?」と言っていると、サッと現れ躊躇なく匂いを嗅ぎ「〇〇ちゃんのを!」と言った子数知れず…。粘土で結婚指輪を作ってくれた〇〇君。卒園する日にお別れが悲しくて泣きじゃくっていた〇〇ちゃん…。話し出したらもう止まらないほど、子どもたちと過ごした時間は大切な大切な宝物です。

そんな子どもたちが、園に帰ってきてくれることがあります。遊びに来てくれることもあれば、中学生のチャレンジ体験として来てくれることも、赤ちゃんを抱いて親になったと報告に来てくれることも…。そんな時にはいつも、“あんなに小さかった子が立派なお兄さん、お姉さんになったな…”。と思うと同時に、“今ここにいる園児たちも、いつかこんな風に大きくなるのかな…”。と思いをはせています。こんな風に、日々の成長を間近で喜び合ったり、卒園してからも園を懐かしんで遊びに来てくれたりする場面に直面すると、保育の仕事の良さを感じます。

50年の歴史とともに様々な変化を遂げてきた嵯峨野こども園ですが、昔も今も変わらず大切にしている、この園ならではの活動が、園の農園で農作物や草花に触れることです。春のチューリップ見学に始まり、苺、玉葱、いろいろな夏野菜に、さつま芋などの収穫を楽しみ、四季を感じられるようにと、前園長先生自ら畑を耕して手入れし、子どもたちに最高の環境を整えてくださっています。雑草の多さに苦戦しつつも、子どもたちの喜ぶ顔を思い浮かべながら職員全員でひたすら草を引き、皆で手入れをしています。子どもたちが土に触れ、生長を間近で感じながら、自分で収穫したものを食べる体験はとても貴重なことで、これも園のメインテーマである『楽しい保育園』の活動の一つだと思っています。

令和3年度からは新園長先生の下、皆で助け合いながら子どもたちが毎日元気に過ごせるように、職員一同、力を合わせて保育をしています。時代とともに変化していくニーズにも対応していけるよう、職員研修も積極的に参加し、職員間で情報共有をしっかりとって保育の底上げを図っています。

子どもたちにとって、生まれて初めての小さな社会が嵯峨野こども園であることに、大きな使命と責任を感じながら、“今”を生きる子どもたちの育ちを支える保育ができるように、これからも職員一同、一丸となって努力していきます。今後とも、『子どもの笑顔はみんなの願い』を真ん中に、保護者の皆様にご理解とご協力をいただきながら、一步一步、歩んでまいりますので、皆様のお力添えをよろしくお願いいたします。



## クラスリーダー 保育教諭

初めて「せんせい」と呼ばれる事が嬉しくて、恥ずかしいなあと感じたあの日から十数年。ホールが建っているあの場所には西園庭があり、今の理事長先生が子どもたちに「おはよう」と門前の道から声を掛けてくれるので、遊んでいる子どもたちも「えんちょうせんせい」と喜んで駆け寄っていたことが思い出されます。

又、農園に行けば、四季折々の植物や野菜を見たり、収穫したりと、今の時代では、なかなか出来ない経験を、子どもたちだけでなく、職員もさせてもらっています。

「物を大切に、今ある物で、豊かな保育を。“やれるようにやる”」事を念頭に、実際に修繕をしに、保育室に来てくれる理事長先生の姿を見て、子どもたちも自分の物だけでなく、みんなで使う物も大切にする気持ちを育てているように思います。

50年間の中で、たくさんの子どもたちが入園、卒園した嵯峨野保育園。現在の嵯峨野こども園は、この先また1日、1ヶ月、1年を大切に、楽しい保育園であり続けていきたいです。



## 保育教諭

創立50周年。この記念すべき年に職員として働くことができ、大変嬉しく思います。

社会人としても、保育者としても新人の私たちは、日々喜んだり、落ち込んだりの繰り返しです。分からないことだらけの私たちに丁寧に指導して下さる先生方や、温かく見守って下さる保護者の方々には本当に感謝しています。

園と家庭が、元気で温かい笑顔で子どもたちに接し、共に喜んだり、悲しんだり、考えたりと、一人ひとりの気持ちに共感し、可能性を信じ温かく見守っているからこそ、嵯峨野こども園の子どもたちは元気でのびのびとしているのだと思います。

昔からある農園で、旬の野菜や果物を子どもたちと一緒に収穫し、自然に触れたり、給食やおやつとして食べることが出来、子どもたちと「おいしいね」と言い合う時間が幸せです。

このような経験を通して、日々の生活の思い出をたくさん作り、これからも子どもたちにとって毎日が新鮮で笑顔いっぱいの楽しいこども園にしていきたいです。

## 嵯峨野こども園を卒園した職員



赤い通園靴を肩に下げ登園していた頃、毎日が“楽しい”“面白い”“大好き”で溢れていたのを鮮明に覚えています。リズム教室や体操教室、プール遊び、戸外遊び、農園でのお芋掘り、いちご摘み、どろんこ遊び、ボディーペインティング…。もちろん運動会やお遊戯会、園祭、お泊まり保育。どれも楽しくて嬉しくて、張り切り夢中になって取り組んでいたと思います。園祭でパンダについて調べた際、パンダの赤ちゃんはピンク色だということを知り衝撃を受けました。「なんで？どうして？」と担任の先生に何度も質問をした事を覚えています。秋には中庭に落ちている金木犀をティッシュに包み「いい匂いがする♡」と家に持って帰っていました。そして時には友達と気持ちがぶつかり合い喧嘩もしましたが、毎日全力で遊びました。先生たちも全力で遊んでくれ、褒めてくれ、認めてくれ、時には叱ってくれ…。そんな毎日の中でたくさんの事を学びながら過ごしました。

自分が育った 50 年という歴史のある園で「先生」と呼ばれるのは照れくさいですが、誇らしさも思います。小さい頃の楽しい記憶は大人になっても残っているので、子どもたちとたくさん“楽しい”を共有して毎日を過ごしていきたいです。

## 調理室

こども園ができた初めは、梅ノ宮乳児保育園で作られた給食を車で運んでいました。その後、自園で作るようになりましたが、最初から完全に手作り給食は難しく、市販の物等も使っていましたが、手作りでおいしく「子どもたちの体に良いものを」という思いで試行錯誤を続け、今の給食になりました。

大切にしている子どもたちの味覚形成に大事な「旨味」の元となる「出汁」の取り方は、昔から変わらない方法で受け継がれています。また、農園では季節の野菜を育て、旬を感じながら食べてもらうことを大切にしています。

これからも今まで大切にしてきたことを守りながら、新しいことも取り入れ、いつまでも子どもたちの記憶に残る給食を作っていきたいです。

これからも  
よろしくお祈いします！

